

## 第 208 回 荒川区のドン・ボスコ像、松尾芭蕉像、及び浅草の新川柳作像

筆者：林 久治（記載：2022 年 11 月 8 日）

### （1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張っただけで人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」という意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要不可欠である。昨年の末には感染者数が激減し、「これで流行は終息か？」と期待していた。所が、本年になって第 6 波が到来してしまった。2 月 3 日には、日本全国の新規感染者数は、過去最高の 104,334 名に達した。しかし、これをピークとして新規感染者数は徐々に減少して、6 月 23 日には 16,670 名にまで減少した。

私は第 4 回目の予防接種を 7 月 8 日に受けることが出来た。そこで、私は 7 月 16 日からの連休後に大阪に行って、孫達と遊ぶことを計画した。しかし、6 月末から第 7 波が到来して、新規感染者数が急激に増加し始めたので、残念ながら私は大阪行きを中止した次第である。その間、新規感染者数は急激に増加し、8 月 3 日には過去最高の 249,789 名にまで達した。これは、当日の世界最高値であった。

東京地方の猛暑は例年以上で、7 月初旬から最高気温は連日 35℃以上であった。従って、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索をしばらく自粛していた。しかし、8 月 4 日から 6 日までは大変涼しくなったので、6 日には東京でも銅像探索を再開した。9 月初旬、私共は大阪に滞在し、近畿の銅像を探索した。東京に帰ってから、運動を兼ねて銅像探索を続けている。

私は、10 月 8 日に品川区の上條秀介像、浦本政三郎像、及び菊地淡水像を探索した。10 月 21 日には、品川区の町田佳聲像、石井鐵太郎像と高木正年像も探索した。これらの探索記を含めて、私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

さて、荒川区の橋本佐内像は [1\) のサイト/](#) には収録されていない。本像の近くの南千住駅界隈に、ドン・ボスコ像と井上省三像もあるので、私は 10 月 29 日にこれら 3 像を探索した。[206 回の記事/f](#) では橋本像の探索記を記載した。[前回の記事/f](#) では井上像の探索記事に記載した。今回はボスコ像の探索記を記載する。なお、私は 11 月 4 日に、南千住駅前の松尾芭蕉像と浅草の新川柳作像も探索した。本稿はこれら 3 像の探索記である。本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。（本文は 3 ページに続く。）

(2) カトリック三河島教会の聖ドン・ボスコ像



図1. 上：南千住駅の周辺地図、本図は、[3\) のサイト](#)/より借用。①：回向院、②：延命寺、③：橋本佐内像、④井上省三像、⑤ドン・ボスコ像、⑥松尾芭蕉像。  
下：カトリック三河島教会の玄関。

南千住駅の周辺地図を図上1に示す。10月29日に、私は橋本佐内像（図1上の③）と井上省三像（図1上の④）を探索した後、ドン・ボスコ像（図1上の⑤）の探索に向った。なお、ボスコ像は[1\)のサイト/](#)には収録されていない。カトリック三河島教会の玄関の写真を図1下に示す。

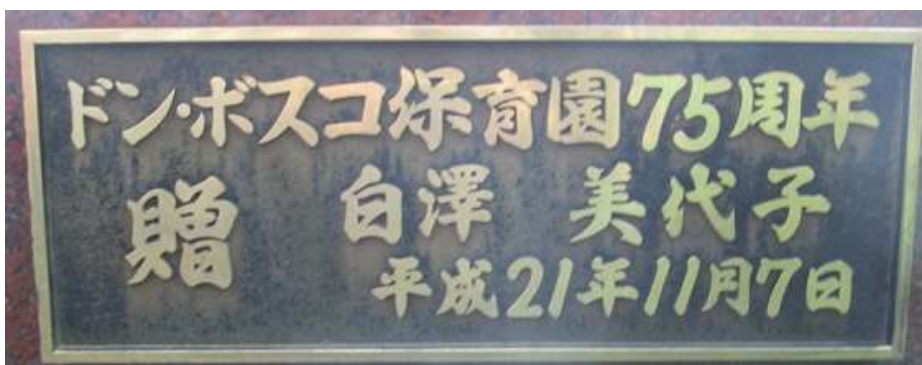


図2.

上左：三河島教会の玄関の  
聖ドン・ボスコ像、

上右：本像の題字

下：台座背面の銘文。



以前、私が「教会の銅像」で検索していた時、[4\) のサイト/](#)で荒川区の「カトリック三河島教会」にボスコ像があることを知った。そこで、今回本像を探索した次第である。図1上に示すように、本教会は荒川郵便局の近くにある。本局を目指して行くと、大通りに面して本局の隣に本教会があった。その写真を図1下に示す。

本教会の前に立像が設置されていた。立像の近接写真を図2上左に示す。図2上右には、本像の台座正面にあった題字を示す。本像はよく見かける「聖ボスコと子供達の像」である。台座背面には、寄贈者のプレートがあった。その写真を図2下に示す。

ドン・ボスコの経歴や業績は、ウィキペディアやその他の多くの記事で紹介されている。「カトリック三河島教会」の概要は、公式ホームページ ([5\) のサイト/](#)) に記載されている。本サイトによれば、本教会は「ドン・ボスコ保育園」などの多くの教育・更正施設も運営している。本保育園のホームページ ([6\) のサイト/](#)) によれば、本園の開園は1934年4月1日であった。これらの資料などにより、ボスコ像の概要は次の通りである。

### 聖ドン・ボスコと子供達の立像

設置場所：東京都荒川区荒川3-11-1 カトリック三河島教会玄関前

制作者：不明

寄贈日：2009年11月7日 ドン・ボスコ保育園75周年

寄贈者：白澤美代子

設置経緯：ヨハネ・ボスコ（1815年8月16日－1888年1月31日）は、イタリア・ピエモンテ州の生まれ。1835年から1841年までキエリの大神学校で哲学、神学を学んだ後、1841年、当時のサルデーニャ王国の首都トリノで司祭に叙階された（ドンはイタリア語で司祭への敬称）。19世紀後半のイタリア統一運動と産業革命の中で青少年たちが放置される現実に直面し、もっとも貧しい青少年たちのために生涯を捧げることを決意し、1859年にサレジオ会を設立。1934年に列聖。現在、サレジオ会の本部はローマにあり、ドン・ボスコの理想を引き継いで世界中で青少年教育活動を行っている。

カトリック三河島教会にはドン・ボスコ保育園、ドン・ボスコ子育てセンターがあり、ボーイスカウト荒川2団、ガールスカウト東京108団、そして教会学校と青少年の活躍が目立つ。地元では教会と言うよりは「ドン・ボスコ」の名で親しまれている。1933年、東京大司教のシャンボン（1875-1948）は、サレジオ会に東京の三河島地区に教会を作ることを依頼した。当時、三河島周辺には教会は無く、浅草、本所、本郷が一番近い教会であった。この三河島地区には町工場が多く、小さい家にはたくさんの子供たちがいた。青少年の教育をモットーとするサレジオ会にとって願ってもない働き場であった。シャンボン大司教はサレジオ会の精神に従って自由に会員が働けるように配慮した。教会と同じ敷地にあるドン・ボスコ保育園は、1934年4月1日に開園した。

### (3) 南千住駅前の松尾芭蕉像

10月29日に、私が南千住に橋本佐内像等を探索に来た時には、駅前に芭蕉像があることに気付かなかった。29日に橋本像を撮影した結果は、写真の出来栄が大変悪かった。そこで、私は11月4日に橋本像を再撮影することとした。その間、私は南千住駅西口前（図1の⑥）に本像があることを知った。本像は[1\) のサイト/](#)には収録されているが、基本情報が記載されていないので、4日について探索することとした。



## 南千住駅西口ロータリーに 松尾芭蕉像が完成

奥の細道千住あらかわサミットの開催を記念して建立を進めていた「松尾芭蕉像」が完成し、3月4日、南千住駅西口のロータリーで除幕式を行いました。

この像は、荒川区顧問であり、極彩色木彫家の平野千里氏が制作したブロンズ像で、芭蕉が遙か奥州へ思いを馳せて、矢立初めの句を詠む姿を表現しています。

問合せ 観光振興課 ☎内線461



▲平野千里氏による作品紹介の様子



図3. 上左：南千住駅西口前（図1の⑥）に設置された松尾芭蕉像、上右：松尾像の除幕式を伝える「あらかわ区報」（2015年3月21日発行）。本図は、[7\)のサイト/f](#)より借用。下：本像台座のプレート。

図3上左に、駅前の芭蕉像を示す。なかなか立派な立像である。本像の除幕式を伝える「あらかわ区報」の記事を見つけたので、そのコピーを図3上右に示す。本記事より、「**本像の除幕式は2015年3月4日であった**」ことが分かった。また、本

像の台座背面には関係者の名前を記載したプレートがあった。その写真を図3下に示す。それには、つぎのように書かれていた。(句読点は林が記載)

制作者 彫刻家 平野千里、企画協力 鋳金家 菓子満、題字：荒川区長 西川太一郎  
奥の細道あらかわサミット開催記念、平成27年3月、荒川区

本像制作者の平野千里氏の略歴は、[8\)のサイト/](#)に次のように書かれている。

平野千里氏は日本近代木彫界の巨匠「平櫛田中(ひらぐしでんちゅう)」の彩色を担当していた彩色木彫の第一人者・「平野富山(ひらのふざん)」を父に持つ。自身は20歳でイタリアへ留学し、西洋彫刻の技術を学んだ後、帰国。帰国後は父、平野富山に極彩色の教えを受け、日本の伝統技術である極彩色技術を今に伝える唯一の彫刻家である。

1948年 東京に生まれる。

1973年 ローマ・アカデミア美術学校彫刻科(ファッツィーニ教室入学)

現在は荒川区顧問ACC(財)荒川区地域振興公社理事(社)太平洋美術会理事荒川区美術連盟顧問

本像企画協力の菓子満氏は、橋本佐内像を鋳造した人である。彼の略歴は[206回の記事/f](#)で紹介した。本像の横には、本像の建立経緯を書いた掲示があった。以上の資料などにより、南千住の芭蕉像の概要は次の通りである。

#### 松尾芭蕉立像

設置場所：東京都荒川区 JR南千住駅西口

制作者：彫刻家 平野千里(荒川区在住、1948-)

企画協力：鋳金家 菓子満(荒川区在住、1938-)

題字：荒川区長 西川太一郎

除幕式：2015年3月4日 奥の細道あらかわサミット開催記念

設置経緯：「行春や鳥啼魚の目は泪」元禄2年(1689)3月27日、この句を矢立初めの句として、松尾芭蕉(1644-1694)はその生涯をかけ、ここ千住から「奥の細道」へと旅立ちました。芭蕉が渡った千住大橋は、江戸と東北の地を結び、私たちに俳句の世界へとといざなう大橋として、昔もいまもこれからも隅田川に架かります。私たちの暮らすまちには、人々が行き交い、芭蕉の想いと四季折々の美しさに導かれ、子規が一茶が山頭火がこの地で俳句を詠みました。「五・七・五」17文字の無限に広がる世界の中で、私たちは思いを伝える力を持ちます。新しいものを創りだす力を持ちます。世界中の人たちと心を結ぶ力を持ちます。荒川区は、俳句の魅力を次代につなぐ架け橋として、子どもから大人まで俳句文化のすそ野をひろげ、豊かな俳句の心を未来に伝えることを誓い「俳句のまちあらかわ」を宣言します。

平成27年3月14日 荒川区

起草委員会委員長 対馬康子

委員 金子兜太、小池寛治、佐々木忠利、銭谷眞美、西村我尼吾

#### (4) 浅草の新川柳作像

私は[9\)のサイト/0](#)より、浅草の「新川柳作記念館」に新川柳作像があることを知った。本像は[1\)のサイト/](#)には収録されていないので、私は芭蕉像の探索後に地下鉄で南千住から浅草に行き新川像を探索した。「新川柳作記念館」は「世界のカーン博物館」と同じビルに入居している。

図4上に「世界のカバン博物館」の周辺地図を、図4下に「世界のカバン博物館」が入居しているビルの写真を示す。本ビルの7階に「カバン博物館」が、8階に「新川記念館」が入居している。



図4. 上：「世界のカバン博物館」の周辺地図、本図は、[10\) のサイト/V](#)より借用。下：「世界のカバン博物館」が入居しているビル。

図4下には、「世界のカバン博物館」が入居しているビルの写真を示す。本ビルの玄関ホールに入ると、博物館の受付があった。私は、受付の可愛いお姉さんに「博物館に行きたいのですが、料金は？」と聞くと、「入場は無料です。そのエレベーターで7階まで行って下さい」と親切に案内して下さいったうえに、お土産の布バッグまで頂いた。私は博物館をスルーして、8階まで直接上がり記念館に行った。記念館入口の写真を図5に示す。



図5. 「新川記念館」の入口

[11\) のサイト/m](#)は、「エース株式会社」、「世界のカバン博物館」、及び「新川柳作記念館」の概要を以下のように紹介している。

ACEとは、エース株式会社のこと。日本の鞆メーカーである。かつては、スーツケースで有名な「サムソナイト」の鞆をライセンス契約で製造販売していた。それだけ信頼があり高い技術があるということ。現在、東京都渋谷区に本社がある。以前は、東京都台東区に東京本社があった。今も建物は残っており、カスタマーセンター（エースサービス株式会社の本社）とミュージアムが開設されている。7階は、「世界のカバン博物館」。世界中の多種多様なカバンが紹介されている。最上階の8階は、「新川柳作記念館」。創業者の生涯とエースの社史について展示されている。1975年に当時としては珍しい「企業内博物館」を開いたのが、はじまり。世界の国にはそれぞれカバンの歴史があり、独自の文化・風俗を知ることができる。2015年7月31日に開かれた。創業者の生誕100年目にあたる。



また、ウィキペディアには次のような記載があった。

エース株式会社は、「新婚さんいらっしゃい!」の番組を提供し、出場者にはサムソナイトの旅行バッグを出場記念品として贈呈していた。

図5に示すように、本記念館入口には1基の胸像があり、その題字には「エース株式会社取締役社長 新川柳作氏之像」とあった。また、入口の額には新川氏のモットーであった次の言葉が掲示されていた。

今に見ている僕だって 見上げるほどの大木に なって見せずにおくものか



図6.

左：新川柳作氏之像

右：新川氏の写真。

本図は、[12\) のサイト](#)より借用。



創業者 新川柳作

図6に新川柳作氏の胸像を示す。本像背面には、制作者の名前が「立体写真像 発明者盛岡勇夫作」と書かれていた。また、背面には碑文も書かれていた。その写真を、次ページの図7に示す。それには、次のように記載されていた。

取締役社長 新川柳作氏之像

祝 藍綬褒章受章 昭和五十一年十月十九日

贈 エース株式会社・エースラゲージ株式会社 役員社員一同

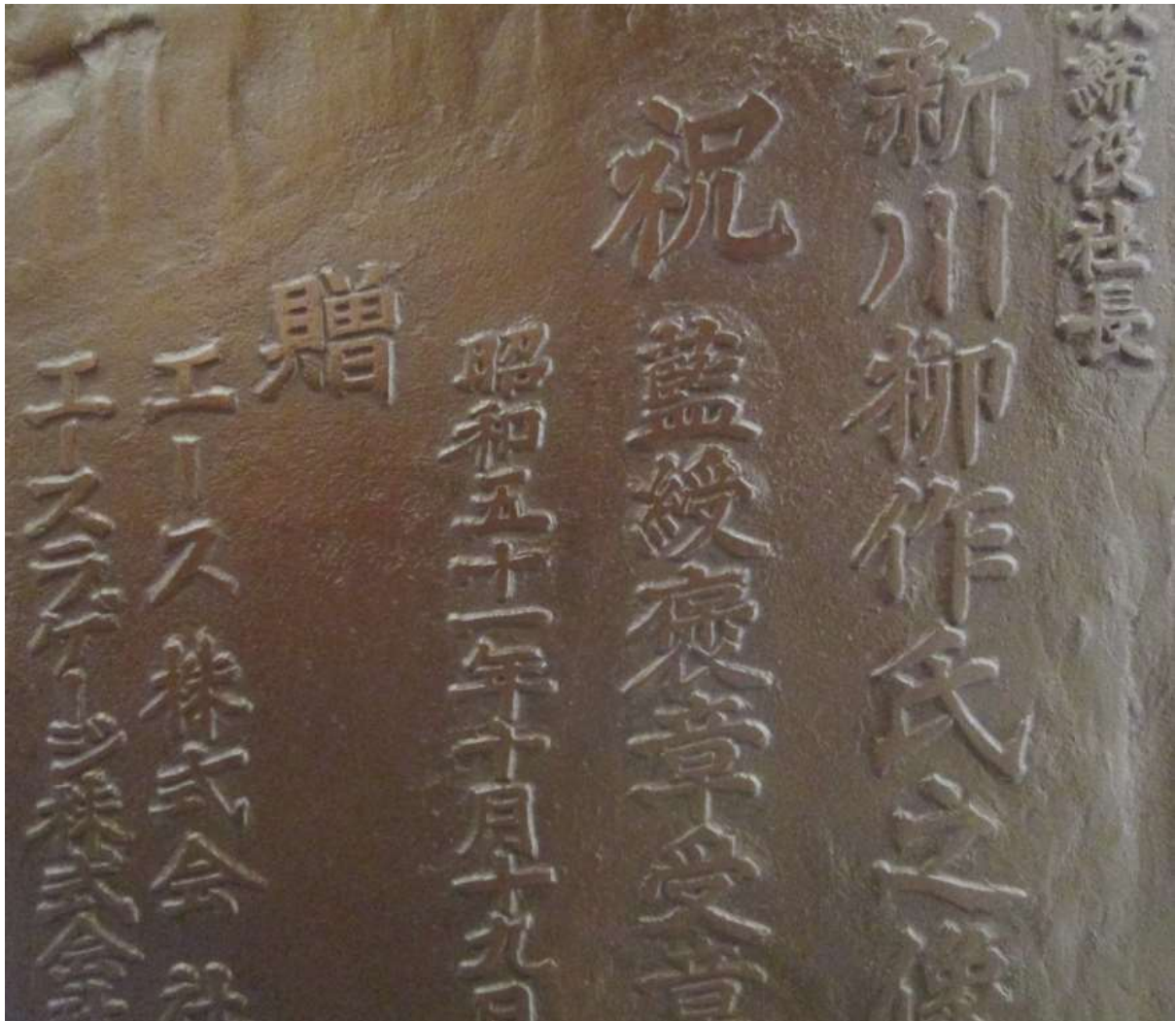


図7. 新川像背面の碑文

ウィキペディアには新川氏の記事はないが、彼の経歴に関するネット記事は多い。その主なものを以下に示す。

記事：[9\) のサイト/0](#)、[12\) のサイト/](#)、[13\) のサイト/1](#)、

動画：[https://www.youtube.com/watch?v=2xa\\_jNGZW0UM](https://www.youtube.com/watch?v=2xa_jNGZW0UM)。

特に、[13\) のサイト/1](#)（新川柳作物語）は、新川氏が自ら書かれた詳細な自伝で、彼の生涯がよく分かる。

以上の資料などにより、新川贈の概要は次の通りである。

#### 新川柳作氏の胸像

設置場所：東京都台東区駒形 1-8-10 新川柳作記念館入口前

制作者：盛岡勇夫（立体写真像発明者）

寄贈日：1976年10月19日（藍綬褒章受章記念）

寄贈者；エース株式会社・エースラゲージ株式会社 役員社員一同

設置経緯：エース株式会社の創業者・新川柳作氏（1915年7月31日－2008年1月）は、石川県白山市で誕生。母一人が4人を育てた。小2の教科書「椎の木と榎の実」の話のな

かにある「今に見ている僕だって、見上げるほどの大木になって見せずにおくものか」を心に刻んだ。16歳、大阪の加藤忠商店（カバン卸業）に入社。1940年、大阪でカバン製造卸業を開業。1950年、株式会社新川柳商店を創業。1953年、東レのナイロンという新素材でナイロンバッグを開発。60歳、会長。89歳、上海に中国エース本社ビル、「母念」の石碑を建設。2008年1月に他界。「私の人生の大半はカバンに明け暮れた日々だった」と本人がいうように、カバンに明け暮れた92年の生涯であった。

ACEとは、エース株式会社のこと。日本の鞆メーカーである。かつては、スーツケースで有名な「サムソナイト」の鞆をライセンス契約で製造販売していた。それだけ信頼があり高い技術があるということ。現在、東京都渋谷区に本社がある。以前は、東京都台東区に東京本社があった。今も建物は残っており、カスタマーセンター（エースサービス株式会社の本社）とミュージアムが開設されている。7階には「世界のカバン博物館」（1975年開館）があり、世界中の多種多様なカバンが紹介されている。最上階の8階には、「新川柳作記念館」（2015年7月31日開館）があり、創業者の生涯とエースの社史について展示されている。

#### 参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：<https://www.arakawa-sposen.com/>
- 4) のサイト：<https://www.homemate-research-religious-building.com/dtl/15091704145/>
- 5) のサイト：<http://www.catholic-mikawashima.join-us.jp/>
- 6) のサイト：<https://donbosco.ed.jp/>
- 7) のサイト：[https://www.city.arakawa.tokyo.jp/documents/9789/0321\\_08.pdf](https://www.city.arakawa.tokyo.jp/documents/9789/0321_08.pdf)
- 8) のサイト：<https://www.butuzou-world.com/introduce/hirano/>
- 9) のサイト：<https://k-hisatune.hatenablog.com/entry/2020/02/08/000000>
- 10) のサイト：<https://mapfan.com/spots/SC3WI,J,V>
- 11) のサイト：[https://www.8ra8ra3.com/entry/ace\\_museum](https://www.8ra8ra3.com/entry/ace_museum)
- 12) のサイト：<https://www.ace.jp/ryusaku.shinkawa/personality/>
- 13) のサイト：<https://www.ace.jp/ryusaku.shinkawa/story/story01.html>
- 14) のサイト：<https://www.youtube.com/watch?v=2xajNGZWouM>